

取り組みの状況

◆1～3号機の原子炉・格納容器の温度は、この1か月、約25℃～約45℃※1で推移しています。
また、原子炉建屋からの放射性物質の放出量等については有意な変動がなく※2、総合的に冷温停止状態を維持していると判断しています。

※1 号機や温度計の位置により多少異なります。

※2 原子炉建屋から放出されている放射性物質による、敷地境界での被ばく線量は最大で年間0.03ミリシーベルトと評価しています。これは、自然放射線による被ばく線量(日本平均：年間約2.1ミリシーベルト)の約70分の1です。

増設・高性能多核種除去設備の設置状況

多核種除去設備（ALPS）は、6月下旬以降、計画的な停止を除き、3系統全てが稼働しています。

増設多核種除去設備は、9月中旬から、高濃度汚染水を用いた試験運転を開始する予定です。高性能多核種除去設備は、10月から同様の試験運転を開始する予定であり、8/20より検証試験装置により高性能吸着材等の性能確認を始めています。



<増設多核種除去設備 設置状況>

海水配管トレンチ 汚染水除去のための追加対策

2・3号機の海水配管トレンチ注に残っている高濃度汚染水を取り除くため、建屋とトレンチのつなぎ目で水を凍らせて遮断する計画です。

つなぎ目において完全に凍結しないため、冷却能力の強化（氷の投入、凍結管増設等）を行ってきました。今後は、水の流れを抑えて凍結させるため、すき間を詰める材料を注入する等の追加対策を実施し、トレンチ内の汚染水を確実に除去します。

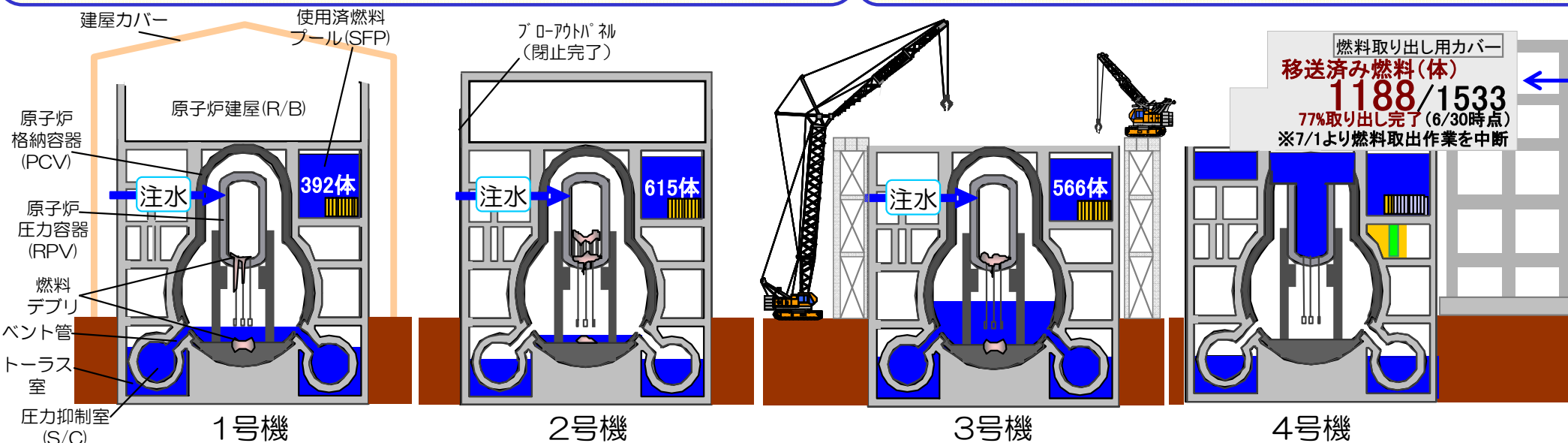
なお、このトレンチの凍結は、水そのものを凍らせるのに対し、凍土遮水壁は地中の水分を凍らせるもので、異なる取組です。凍土遮水壁は、福島第一敷地内にて実証試験を行い、凍結することを確認し、現在、凍結に向けた工事を進めています。

注) 海水配管トレンチ：配管やケーブルが通るトンネル

サブドレン他浄化設備 浄化性能確認試験の実施

建屋周辺の井戸（サブドレン）等からくみあげた地下水を浄化する装置（サブドレン他浄化設備）の性能を確認するため、井戸からくみあげた地下水を用いた浄化性能の確認試験を8/20に行いました。

浄化した地下水の水質は、地下水バイパスの運用目標を下回ることを確認しました。なお、浄化した地下水の排水については、関係者のご理解なしには行いません。



4号機使用済燃料プール 燃料取り出し作業の再開

天井クレーンなどの年次点検のため、7/1から燃料取り出し作業を中断しています。9/4頃より燃料取り出し作業を再開し、2014年内の取り出し完了を目指します。

トリチウム分離技術 検証試験事業 公募採択者決定

「汚染水処理対策技術検証事業（トリチウム分離技術検証試験事業）」の補助事業者の公募を5/15～7/17に行いました。

国内外の有識者による審査の結果、8/26に3件の採択事業者を決定いたしました。

凍土遮水壁 凍結管設置開始

汚染水を増やさないための対策として、建屋の周囲を凍土の遮水壁で囲みます。

今年度末の凍結開始を目指し、凍結管を設置する穴の掘削工事等を実施中で、8/27時点で約17%の掘削が完了しました。

また、8/4より凍結管の設置を開始しました。

労働環境の改善に向けた作業員へのアンケート

発電所で作業される作業員の皆さまの労働環境の改善に向け、8/27よりアンケートを実施しています。

今後、頂いたご意見を取りまとめ、労働環境の改善に活かしていきます。

固体廃棄物 貯蔵庫の増設

ガレキ等を安全に保管する設備として、200リットルドラム缶約11万本相当の保管容量を持つ固体廃棄物貯蔵庫（第9棟）を増設します。

8/13に実施計画を申請し、2017年1月の完成を目指し準備を進めています。

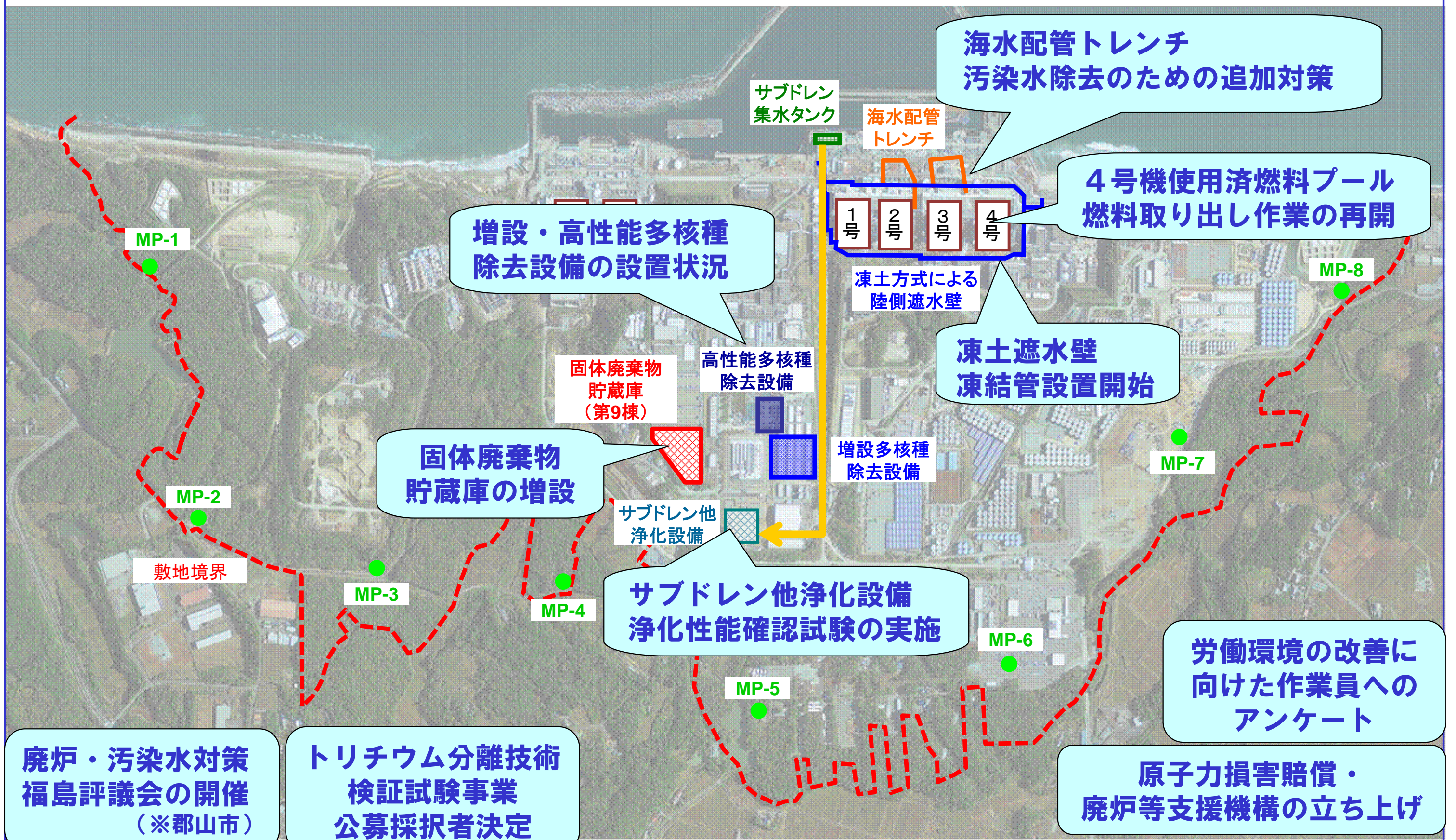
原子力損害賠償・廃炉等支援機構の立ち上げ

国が前面に立って、より着実に廃炉を進められるよう、原子力損害賠償・廃炉等支援機構が8/18に発足しました。内外の英知を集め、中長期的な廃炉に関する技術的な課題解決のための企画・支援等を行っていきます。

廃炉・汚染水対策 福島評議会の開催

8/25に第4回会合（郡山市）を開催し、これまでの御意見を踏まえ、福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水対策に関する分かりやすい情報提供の取り組みを紹介し、現場を支えている作業員の環境改善に関するご意見をいただきました。

主な取り組み 構内配置図



提供: 日本スペースイメージング(株)、(C)DigitalGlobe

※モニタリングポスト (MP-1~MP-8) のデータ

敷地境界周辺の空間線量率を測定しているモニタリングポスト(MP)のデータ(10分値)は $1.4 \mu\text{Sv/h} \sim 4.8 \mu\text{Sv/h}$ (2014/8/1~8/26)。

MP-2~MP-8については、空間線量率の変動をより正確に測定することを目的に、2012/2/10~4/18に、環境改善(森林の伐採、表土の除去、遮へい壁の設置)の工事を実施しました。

環境改善工事により、発電所敷地内と比較して、MP周辺の空間線量率だけが低くなっています。

MP-No.6については、さらなる森林伐採等を実施した結果、遮へい壁外側の空間線量率が大幅に低減したことから、2013/7/10~7/11日にかけて遮へい壁を撤去しました。